

菅茶山の漢詩ネットワーク

—日本近代化への文芸的公共性を醸成—

菅波哲郎 菅茶山顕彰会総会記念講演

神辺商工文化センター 令和5年5月13日

1. 菅茶山の詩のサークル=知的共同体

菅茶山=廉塾（黄葉夕陽村舎）や旅先での詩会

多様な文人が江戸・上方の往来の折に訪ねる

⇒『菅茶山日記』『菅家往問録』

大坂、京、江戸への旅で多様な文人と交遊

⇒「北上歴」「北上日記」「ひたちのみちの記」「戊寅大和行日記」

三谷太一郎著「日本の近代化とは何か」

詩会すなわち「知的共同体」への参加

- ・自ら学ぼうとする人々が自発的に作った組織
- ・組織成立の条件⇒文芸的公共性を必要とする詩、和歌、俳句、狂歌などを嗜む者に、誰に対しても開かれていること。

2. 神辺宿や周辺地域の知的共同体

1) 藤井暮庵宅の詩宴文化 10年3月14日

9日頼春水(広島藩儒者)が孫餘一と来塾。

10日北條霞亭が自著「嵯峨樵歌」の序を請う。

11日道光上人(出雲平田の報恩寺住職)が来塾。

12日彭城東作(長崎の通詞)が徳見訊堂(長崎糸割賦年寄)の書を持参。

この時の茶山の詩

客皆遠方人 客は皆遠方の人
 郷語音聲殊 郷語 音聲を殊にす
 但以墳籍好 但だ墳籍の好みを以て
 談話同此情 談話 此の情を同じくす

2) 河相君推「松風館十勝」

君推が庭園の様々な風景に、茶山へ著名な儒者に詩文を請い、その儒者達が寄せた詩文が

「松風館十勝」頼杏坪(広島藩儒者)、倉成善司(中津藩儒者)、赤崎彦禮(鹿児島藩儒者)、菅信卿(茶山実弟)、柴野栗山(昌平黌儒者) 山本北

山(江戸の儒者)
 岩瀬華沼(肥前島原藩儒者) 亀田鵬斎(江戸の儒者) 紫源(事績不詳)

菅茶山



「松風館十勝」紙本墨書衝立装

1) 武元登々庵の書会

・登々庵(備前国和气郡北方村の人)が廉塾を訪れた最初は享和元年(1801)の秋頃で、翌年茶山の塾名「黄葉夕陽村舎」の備前焼の陶板を贈った。

・享和2年(1802)尺所村大森家で書会を開く。武本君立(閑谷学校儒者)明石退蔵、大森巳之介同武兵衛(尺所村の豪農)万代秀閑(片上の医者)僧侶(土師の正通寺、小幡の慈心院)

⇒生業は多様で、居住地は東は片上(備前市)から西は岡山城下迄の備前南部であった。

一書會之義者各修業之カヲ頭はし、文雅之交を結はむ為也。人各所得有之物二候へハ、互に論談棟磨すへきなり。決て已に誇り人を誹謗する事なるへからさる事。

(中略)

一文雅之席二候得者、惣て貴賤上下之座列無之候。



書會約定(紙本墨書扁額装)

2) 備前岡山の梅華吟社

・文化3年詩集「詩筵一粲」の上梓

・茶山は「序」を求められ、14名が詩を寄せる。

井上四明(岡山藩江戸詰儒者)斎藤一興(岡山藩儒者)武元登々庵(書家)小原梅坡(岡山藩儒者)茶山詩集の序文) 孜堅(僧侶)紫岡順卿

(岡山藩医)明

石退蔵(医師

廉塾の塾生)

無式道人(僧

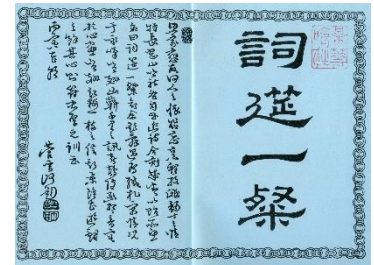
侶)武元君立

(世子侍読)伊

沢璞(岡山藩菅

土)山内彰(岡山藩士)竹西錦(詳細不明)美那

(西大寺の女)水田恒(岡山の人)



茶山 序文(自筆刻)

3) 岡山吟社と「展観書画録」

・会主は宇野蘭軒(倉敷の画家 1771~1822)。

・文化初年頃に開かれた「展観書画会」は様々

な文雅に一家をなした人々が出品。

- ・参加者 井上四明・中村岳洲・斎藤一興・小原梅坡(岡山藩士)明石退蔵・武元登々庵・武元北林・桐野孟徳・若林叢亭(富農や富商)浦上春琴・佐々木逸斎(絵師)＝出品者の身分や職業は多様。

※片山新助『近世岡山町人の研究』(楓亭文庫刊)

4. 旅先で交えた知的共同体

1) 柴野栗山邸での茶山主催の詩画会

文化元年(1804)7月16日

- ・参加者は中国服を着用し中国趣味への憧れを著す
- ・参加者 菅茶山(福山藩儒者)柴野栗山(昌平黌儒者)尾藤二洲(昌平黌儒者)古賀精里(昌平黌儒者)頼杏坪(広島藩儒)倉成龍渚(中津藩儒)谷文晁(白河藩御用絵師)鈴木芙蓉(徳島藩御用絵師) ※出身は民間人



対嶽楼宴集当日真景図(部分・広島県立博物館蔵)

2) 北條震亭と恒心社

- ・山口凹巷(伊勢山田の人)が詩社恒心社の盟主
- ・茶山は文化11年5月22日、に東海道関宿に着く。佐藤子文が迎え、茶山を旅宿(関宿脇本陣)に案内し、そこに凹巷が若き書生と共に訪れ、一人は東夢亭で儒医、もう一人は孫福内蔵で伊勢神宮の外宮に努める。

関駅示佐藤子文 関駅 佐藤子文に示す

薇西二月送君時 薇西 二月 君を送りし時
 再會寧知今日期 再會 寧 ぞ知らん 今日
 期を
 人事難常亦堪喜 人事は常にし難きも亦だ喜ぶ
 に堪えたり
 勢南一夜復傳卮 勢南一夜 復だ 卮 を傳う

『黄葉夕陽村舎詩 後編卷五』

3) 松平定信と「南湖名勝図並詩歌」

- ・南湖は福島県白河市に所在。松平定信が「士民共楽」の理念の基に、園地として享和元年(1801)に完成し、日本最初の公園と称されている
- ・景勝地17景を選定し和名と漢名を付した。和名は公家や諸大名から和歌を、漢名には幕府や諸藩の儒者に詩文を請うた。



南湖十七景詩歌碑



南湖現状風景(令和5年4月撮影)

漢詩文 林述斎・尾藤二州・古賀精里(昌平黌儒者)頼杏坪(広島藩儒者)井上四明(岡山藩儒者)菅茶山(福山藩儒者)

とうづきこ 白河南湖十五勝之一
 逗月湖 広瀬以寧傳公命所需

秋郊省歛晚歸初 秋郊 省歛して 晩に帰る
 の初め

月底湖山好駐車 月底の湖山 車を駐むるに
 好し

最是清輝逗前浦 最も是れ 清輝 前浦に逗
 まり

治波来映左金魚 治波 来たり映ず 左金魚

【黄葉夕陽村舎詩 前編之卷八 文化五年】

5. まとめ

三谷太一郎著「日本の近代化とは何か」

- ①「文学、医学等を含めた広い意味での学芸を媒介とするコミュニケーションのネットワークが成立」
⇒「身分や所属を超えた『**文芸的公共性**』を共有する成員間の平等性の強い**知的共同体**」

その事例として

「**廉塾**という一宿場町を拠点とする、ささやかな全国的なコミュニケーションのネットワーク」
 「頼山陽の『日本外史』その他の著作は『**文芸的公共性**』の一つの結実です」

- ②『**政治的公共性**』は『**文芸的公共性**』に胚胎したその事例として

阿部正弘の政策

- ・1853ペリー来航への海防策を広く諮問する幕臣、諸大名、家臣、民衆に意見を求める。
- ・身分や所属に関わらず人材の登用
川路聖謨、井上清直、水野忠徳、江川英竜
勝海舟、ジョン万次郎、永井尚志

「幕末の危機的な政治状況に対応する政治戦略の一環として権力分立制と議会制の観念が浮上」
⇒明治維新への展望を開く